

◆技術交流事業

ヒトエグサ養殖・加工視察研修（宮古）

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

ヒトエグサ養殖は、県内では北中城や恩納村、宮古島などで養殖されており、北部の沿岸海域でも小規模で養殖が行われている。ヒトエグサは、モズクと違って供給が需要を上回っていることから販売に関してはあまり問題とならない。宮古地区では養殖生産から加工までを漁業者が実施していることから、北部地区における養殖手法の参考とするために視察を行った。

2. 日程及び場所

平成24年4月3日（木）～4日（金）

宮古島市ヒトエグサ養殖漁場、宮古島市漁協加工施設、高野漁港海ぶどう養殖施設、宮古島海業センター

3. 参加者

羽地漁業協同組合 宮城辰徳

4. 引率者

沖縄県水産業改良普及センター本部駐在
水産業普及指導員 中村勇次

5. 内容及び所感

4月3日から4日にかけて羽地漁協組合員宮城辰徳氏と宮古島におけるヒトエグサ・海ぶどう・モズク養殖視察研修を実施した。

宮古到着後、宮古農林水産振興センター上江洲氏の案内でヒトエグサ養殖漁場の視察、その後の洗浄・乾燥行程を見学した。洗浄・乾燥工程は仲本指導漁業士から施設の説明を受けた。宮古地区は三重県の技術を活用して洗浄施設等を整備しており、羽地地区におい

て参考になる取り組みであった。その後、高野漁港近くのシーファーム白川田の宮國氏と長崎シーファームの長崎氏の養殖施設を視察した。続いて、宮古島市海業センターにて宮平課長補佐から宮古地区での栽培漁業の取り組みの説明を受けた。4日は、大浦湾のモズク養殖漁場においてモズク成育状況を視察した。大潮の干潮時だったこともあり歩いて漁場へ行くことができ、既に2隻の漁船が収穫を行っていた。その後、池間大橋付近の漁場を陸上から視察したところ、多数の漁船が収穫作業を行っていた。

これらの視察研修が羽地地区での養殖業振興において参考になれば幸いである。



ヒトエグサ収穫機（ノリ収穫用）



ヒトエグサ養殖場の苗床



宮古島市海業センターを見学



ヒトエグサ養殖網本張りの様子



仲本指導漁業士から加工機械の説明を受ける



高野漁港の海ぶどう養殖施設



ヒトエグサ乾燥機械（椎茸乾燥機を代用）